

4—21—0

(包紙)

「石州濱田東浦大年寄

浦手形

谷田五郎左衛門

伯州米子灘町

御役人衆中」

4—21—1

伯州米子灘町大谷九右衛門船

沖船頭

嘉兵衛

差上申口上之覚

一 私儀此度大坂表_{二而}新規船相求候_{ニ付}、則大坂立壳堀大野屋傳兵衛名前借往来_{三而}去十二月

十八日大坂川請仕、夫より追々罷下り候処、当月十四日

長州赤間関迄罷下、同十八日彼地出帆仕

はゑ泊り迄參候處日和無御座滯船仕候_而

同廿三日彼地出帆仕、夫より順々走參長州

瀬戸崎沖_{二而}夜_ニ入、夫より西ばへ風_{ニ而}走參候

處_{二而}夜明方御當領_ニ隅沖迄走參、夫より

沖之方_江取出シ走下り候處翌廿四日暮合時分

銀山御料黒松沖迄走參り候得_者無程夜入

夫より北風替り候得共何卒温泉津湊_{江と}色々々

心掛まぎり候内大雨_ニ相成、尤其節風_者和キ候

得共東西一向相見得不申候_{ニ付}温泉津湊得

取り不申候得_者夫より何卒濱田外野浦湊_{江心掛}

船中色々相勵候内、俄大暴風西風替地山一向

相分り不申次第_ニ船地込候處折節少シ雨晴地山

相見候得_者乗組一統力を得相勵候内又候

大雨相成北穴風_{ニ而}吹戻シ又々東西一向相見得

不申自然と船地込居候得_者灘伝ひ何卒

外野浦湊_{江入申度}、誠船中一統仏神_江祈願

を込色々相勵候處其夜四ツ時御當浦赤

鼻沖北折操りと申瀬_江楫あたり二重

取りて尻掛け切シ楫乱候故仰可仕直様

濡帆突下ケ候得共濡帆故火急得取込

不申候内次第風波つより候ニ付金周布大釜
磯江近寄候得者市皮綱いはら綱をさし

碇武頭突入候得共、波高ク御座候得者碇

引ケ候ニ付、又々式番三番之碇加賀芋團綱

差入候處既船身持^茂難相成御座候得者

乗組拾七人之者共一命^茂危御座候ニ付

漸々解突落シ乗組一同着之但ニ而船頭

往来持乗揃風波ニづかれ唐鐘浦江漂着

仕仏神之御頼を以一命相助り居候処、唐鐘浦

儀左衛門殿と申仁被見当、早速同浦御役人様江

御届ヶ被下、同廿四日夜四ツ過不殘儀左衛門殿宅江

被連込御介抱被下、即刻浦長善次郎様水夫

中數人中御召連御出被下御勢被付段々

御介抱被下候而大年寄谷田五郎左衛門様江

御注進被下候得者是又御出浮被下乗組

一同江段々被御心付、右乗捨候船行衛一向相知
不申候ニ付浦中者不及申東西浦迄廻状を以

御吟味被成下、猶又濱田御城下浦御奉行様江

御注進被成下候處夜明ケ方ニ金周布浦より右船

御見出御通達御座候ニ付、夫より御役人中様方

水夫衆中大勢御召連難場江御掛付被成下

以御助勢諸道具船津等迄御取揚被下、同廿五日

九ツ時過御城下表より浦御同心役植田十左衛門様江

齊藤喜津右衛門様金周布浦御役人元迄被遊

御出両浦御役人御立会ニ而船頭乗組船宿共

沖合破船之趣逐一口上御聞被遊、乗組之内

病人共者無之候哉、不何寄相応之用事等^茂

有之候ハ、宿主を以無遠慮可申出旨被御心
付、夫より破船場江御出御見分之上何角

御差図被成下候、其後野津浦御番所

波多野軍兵衛様被為御出遊、右難場江

御越船頭并船宿^{江茂}御逢被下段々被為

御心付被下置、其後浦御同心有田丈八様

御出被遊、是又万端御同様ニ被仰聞無残方

御懇意之段千万難有奉存候、今般破船之儀

浦御作法^茂御座候処、私共願之通以御慈悲

御内済被仰付重々難有仕合奉存候、其上
浦方折合之儀茂少細之以謝礼品能御済
船津諸道具一式被下置、慥請取申上難有
奉存候、此上何卒国元江破船為印浦御手形
被下置候様奉願上候、以上

寛政三年

亥二月三日

伯州米子灘町大谷九右衛門船

沖船頭

嘉兵衛(印)

問屋出雲屋

五郎右衛門(印)

大年寄

谷田五郎左衛門様

唐鐘浦長

善次郎様

金周布浦長

市兵衛様

浦手形

船津

折檣

榦

櫓

楫

楫

楫

矢帆

痛帆

管

痛はづ

切打廻シ

ちく路

戸かひ

殲引

切々

細々

壹艘

壹本分

壹葉分

壹本

拾壹丁

四ツ

壹本

數々

壹ツ

壹本

壹本

四丁

式丁

壹本拾七枚

管棟 矢帆柱
檜綱 加賀芋綱
市皮綱 加賀芋綱
楓綱 前操り綱
打セ綱 身ノ繩
尻掛切綱 鐵碇
つぐ切綱 打セ綱
大渡切綱 身ノ繩
水桶 前操り綱
になひ桶 打セ綱
四筋 切綱
七頭 切綱
三房 切綱
式房 切綱
式房 切綱
式房 切綱
式本 切綱
壹本 切綱

但損之分共

大小 大小 大小 大小
武ツ 武ツ 武ツ 武ツ
壹筋 壴房 壴房 壴房
壹筋 壴房 壴房 壴房
七頭 四筋 四筋 四筋
三房 式筋 式筋 式筋
式房 式筋 式筋 式筋
式房 式筋 式筋 式筋
式本 壱本 壱本 壱本

鍋 米櫃 羽釜 銅茶ひん 定膳椀 つるべ たらひ がく 定香盤 なんば ベテ

一 銀五百目

右品々船頭江引渡ス

右船頭より為謝礼受取水夫共江相渡ス

右冲合之儀者不存候得共其節風波
於当浦破船紛無御座候、船滓諸道具
前文之通船宿外野浦五郎右衛門立会
沖船頭嘉兵衛江引渡申候処、相違無御座候
仍而浦手形如件

寛政三年

金周布浦長

市郎兵衛(印)

亥二月三日

唐鐘浦長

善次郎(印)

浦大年寄

谷田五郎左衛門(印)

伯州米子灘町

御役人衆中

(注 繰ぎ目に表裏共押印あり)